



高浜町の児童・生徒の 学力や生活習慣は？

【高浜町教育委員会】

●全体的な傾向

平成26年4月に小学校6年生と中学校3年生を対象に、国語・算数（数学）の学力と学習状況が調査されました。

この調査は、全国的な学力や学習状況を把握・分析し、教育水準の維持向上の観点から教育施策の検証と改善を目的に実施しています。調査内容は、国語や算数・数学の「知識」や「活用」に関することと、学習意欲や生活習慣、学習環境に関することです。

【小学校】国語（A、B）算数（B）は全国並びに福井県の平均正答率を上回っていましたが、算数（A）は福井県の平均をやや下回っていました。

【中学校】国語（A、B）、数学（A、B）とも全国平均の正答率をやや下回り、福井県の平均正答率も下回りました。

その結果から、小学校では習得すべき内容が着実に定着してきており、中学校では学習内容の理解に課題がみられ、基礎基本の習得に一層の努力が必要と言えます。

今回の結果から、授業内容の定着を促進するためには、授業の改善と家庭学習の習慣化が喫緊の課題ととらえ、引き続き家庭への理解と協力や連携を図りながら、今後の学習指導や学習習慣などの改善に努めていきます。

〈小学校〉

国語 A（知識）：ことわざや慣用句、故事成語の意味を理解した使い方に課題がみられます。物語の中の比喩や反復といった表現方法を捉える力に課題がみられます。

国語 B（活用）：本や文章を読み、分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書くことに課題がみられます。

算数 A（知識）：基準となる数量と他を比較して数量の大小を求めることや、小数の掛算や割算が苦手であったり、簡単な計算操作でも回数が増えるとミスが誘発される傾向がみられます。

算数 B（活用）：情報を整理して、筋道を立てて説明することが苦手で、計算のきまりを基に、違う数値の場合でも工夫して計算する方法を式や言葉を用いて説明する力に課題がみられます。

↓
教科（国語、算数・数学）の傾向

児童・生徒の学力の傾向

〈中学校〉

国語 A（知識）：書くこと、読むこと、言語の知識や理解について基本的能力の習得がおおむねできていますが、目的に応じて必要な情報を選択し、複数の情報を組み合わせて正しく判断する力に課題があります。また、目的に沿って話し合い、話し合いの方向を捉える力に課題があります。

国語 B（活用）：複数の資料を読み比べる要旨を捉える力や目的に応じて必要な情報を得て、伝えたい事実や事柄を相手に伝えるように書くことに苦手な傾向がみられます。

数学 A（知識）・数学 B（活用）：文字を用いて数量の関係や法則を表す式の意味を読み取る力が弱く、方程式を解く計算に課題がみられます。図形の展開図、見取図、立体図の関係性についての知識や理解に課題がみられます。資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に証明する力に課題がみられます。